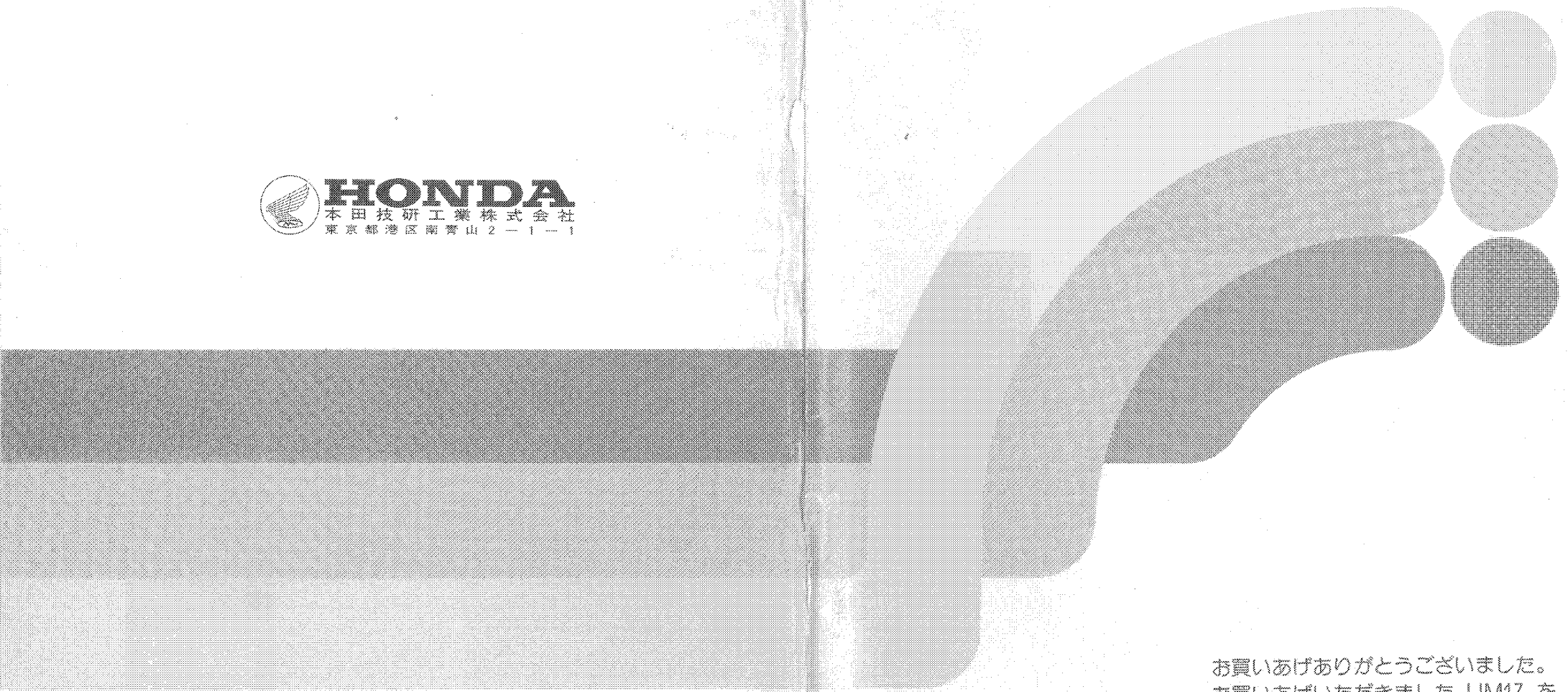
刈まる

ホンダ"草刈機
UM17
取扱説明書



お買いあげありがとうございました。
お買いあげいただきました UM17 を
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明
書をお読みください。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

30VA7041
00X30-VA7-0410

ホサ　Ⓝ 5008703

お買いあげありがとう ございました

お買いあげいただきました製品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店または下記の**<ご相談窓口>**にお気軽にお申しつけください。

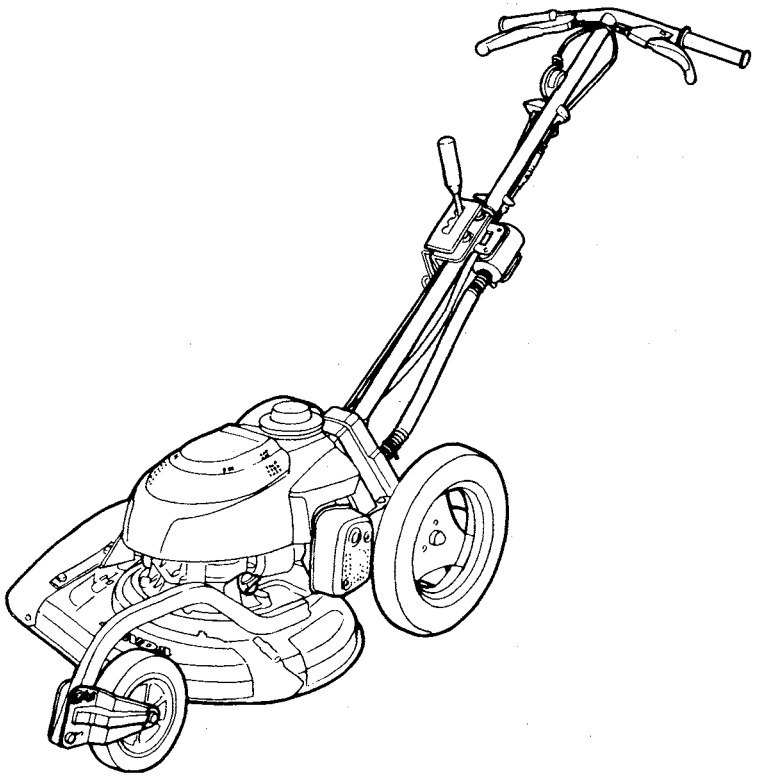
<ご相談窓口>

名称	電話番号	郵便番号	所在地
本田技研工業株式会社 北海道支店お客様相談室	011(261)2073	060	北海道札幌市中央区北一条西7一1
本田技研工業株式会社 仙台支店お客様相談室	022(224)6002	980	宮城県仙台市土樋1一11一2
本田技研工業株式会社 東京支店お客様相談室	03(423)4211	107	東京都港区南青山2一1一1
本田技研工業株式会社 名古屋支店お客様相談室	052(251)7651	460	愛知県名古屋市中区千代田1一7一2
本田技研工業株式会社 大阪支店お客様相談室	06(312)0151	530	大阪府大阪市北区南扇町7一31
本田技研工業株式会社 九州支店お客様相談室	092(752)2255	810	福岡県福岡市中央区赤坂1一13一12

・所在地，電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

ホンダ草刈機UM17(刈丸)を安全快適にお使いいただくために正しい取り扱いをしなければなりません。ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合がありますがご了承ください。



イラスト：SJ(自走)タイプ

目　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 8
- エンジン回転調整レバー …… 10
- 刈刃クラッチ レバー …… 10
- 走行クラッチ レバー(SJ, SJLタイプ) …… 11
- 燃料コック レバー …… 11
- ハンドル高さ調整ボルト …… 12
- 刈取り高さ調整ピン …… 12
- 刈刃カバー開閉レバー …… 13

エンジンをかける前に点検しましょう …… 14
- ガソリンの点検 …… 14
- エンジン オイルの点検 …… 15
- 空気清浄器(エア クリーナ)の点検 …… 16
- 刈刃の点検 …… 17
- サイド プロテクタ ラバー、リヤー プロテクタ ラバーの点検 …… 19
- タイヤ空気圧の点検 …… 19
- 各部の締付け点検 …… 20
- 各部の清掃点検 …… 21

エンジンのかけかた …… 22

運転操作のしかた …… 24
- 1．エンジン始動 …… 24
- 2．運転操作 …… 24
- 3．刈取り作業 …… 24

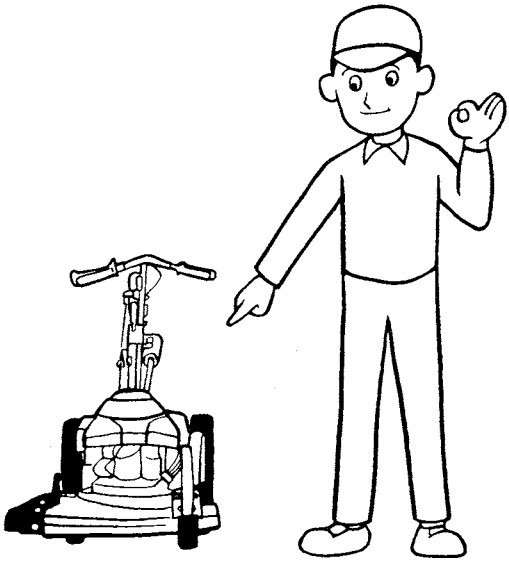
エンジンのとめかた …… 31

定期手入れを行いましょう …… 32
- 作業前点検 …… 32
- 定期点検 …… 33

やさしい点検・整備 ……34
携帯工具 ……34
エンジン オイルの交換 ……35
空気清浄器(エア クリーナ)の清掃 ……37
点火プラグの清掃、調整 ……38
走行クラッチ ワイヤの調整(SJ, SJLタイプ) ……39
刈刃カバー開閉 ワイヤの点検、調整 ……40
スパーク アレスタの清掃 ……41
刈刃の交換、修正 ……42
長期間使用しない時の手入れ ……46
故障のときは ……48
主要諸元 ……49
同梱部品の組付けかた ……50
製品受領書
保証書

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう

草刈機の取り扱いは正しく。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な草刈作業のために次のことを必ずお守りください。



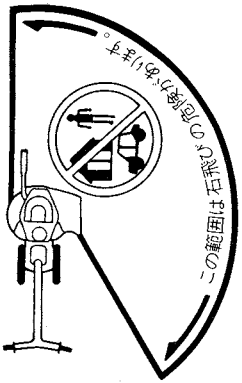
●安全のために知っておきたいこと

★火災の恐れがある場所では作業しない。また格納の場合、火の気のないところにおくなど火災予防に十分注意してください。

★衣類や頭髪、手ぬぐいなどが巻き込まれないよう作業に適した服装及び防護メガネ、安全靴などを用いて作業を行ってください。

★草刈作業範囲内に石等の異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。人身及び物損事故が起きないよう作業時には十分注意してください。特に前方から右方向150°の範囲内は注意してください。





★移動時には必ずエンジンを停止してください。

★刈刃の点検、清掃及び整備する時はエンジンを停止し、必ずプラグ キャップを外してください。

●作業を始める前に

★ホンダが推奨する作業前点検は必ず行ってください。

★ガソリン補給時、必ずエンジンを停止してください。〈火気厳禁〉

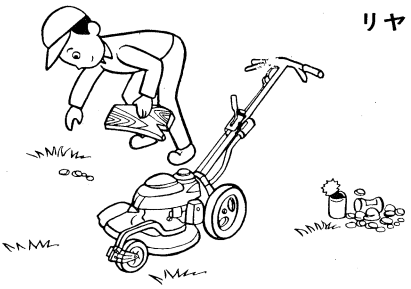
・エンジン(マフラ等)は冷えていますか。

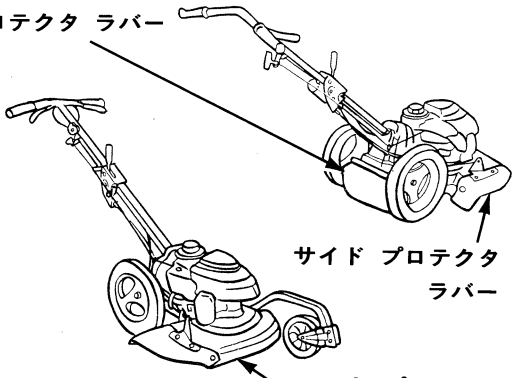
・ガソリンはこぼさないよう注意してください。もしガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動してください。

★放出物による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れ等のすべての異物を取り除いてください。

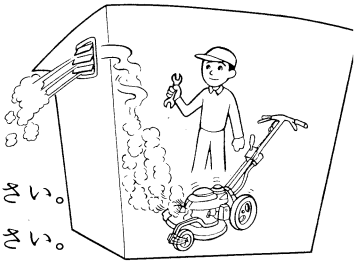
★防護装置(フロント プロテクタ、サイド プロテクタ ラバー、リヤー プロテクタ ラバー等)は、正しく取付けられているか確認してから作業してください。

又点検、整備のため取外された防護装置は、正しく復元され、確実に締付けられているか確認してください。





★屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は、換気に十分注意してください。換気の悪い場所は、有害な一酸化炭素がたまって中毒の危険があります。



●作業中の注意

★草刈作業は日中か十分な照明の下で行ってください。

★作業中は人や動物等を周辺に近づけないでください。

もし、人や動物等が近づいたら作業を停止してください。又作業している周辺に人家や車等がある場合は、作業周辺を防護シート等でおおってから作業を行ってください。

★作業中は足もとに注意してハンドルをしっかり持ち、けっして走らないでください。

★移動する時は必ずエンジンを止め、刈刃を停止して手押しで移動させてください。

★エンジンに草、木の葉等を堆積させないでください。これら可燃物が堆積すると火災の原因になったり、草刈機を破損する場合があります。

★エンジン運転中は刈取り高さの調整はしないでください。

★斜面での草刈りは上下方向でなく、横方向(等高線方向)に行ってください。また20°以上の過度の斜面では草刈機を使用しないでください。

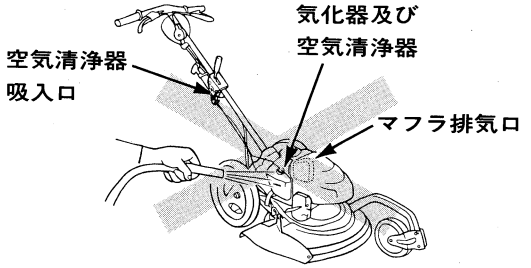
★方向転換をする場合は、刈刃クラッチ レバーをはなして、刈刃回転を止めてからハンドルを押下げて前車輪を浮かし、大径後車輪のみで回転してください。

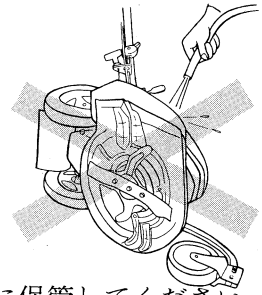
★作業中障害物に当った時はすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するため点火プラグ キャップを点火プラグから外し、損傷を調べてください。異常があればすぐに修理してください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

●作業が終ったら

★エンジンを停止させ、冷えてから各部の清掃を十分行ってください。特にファンカバー フード(空気取入口)、排気系、気化器コントロール リンク廻りに付着した草やホコリを取除いてください。

★気化器及び空気清浄器、ハンドル側空気清浄器吸気口、マフラ排気口に水をかけないでください。特に横に倒しての放水は避けてください。





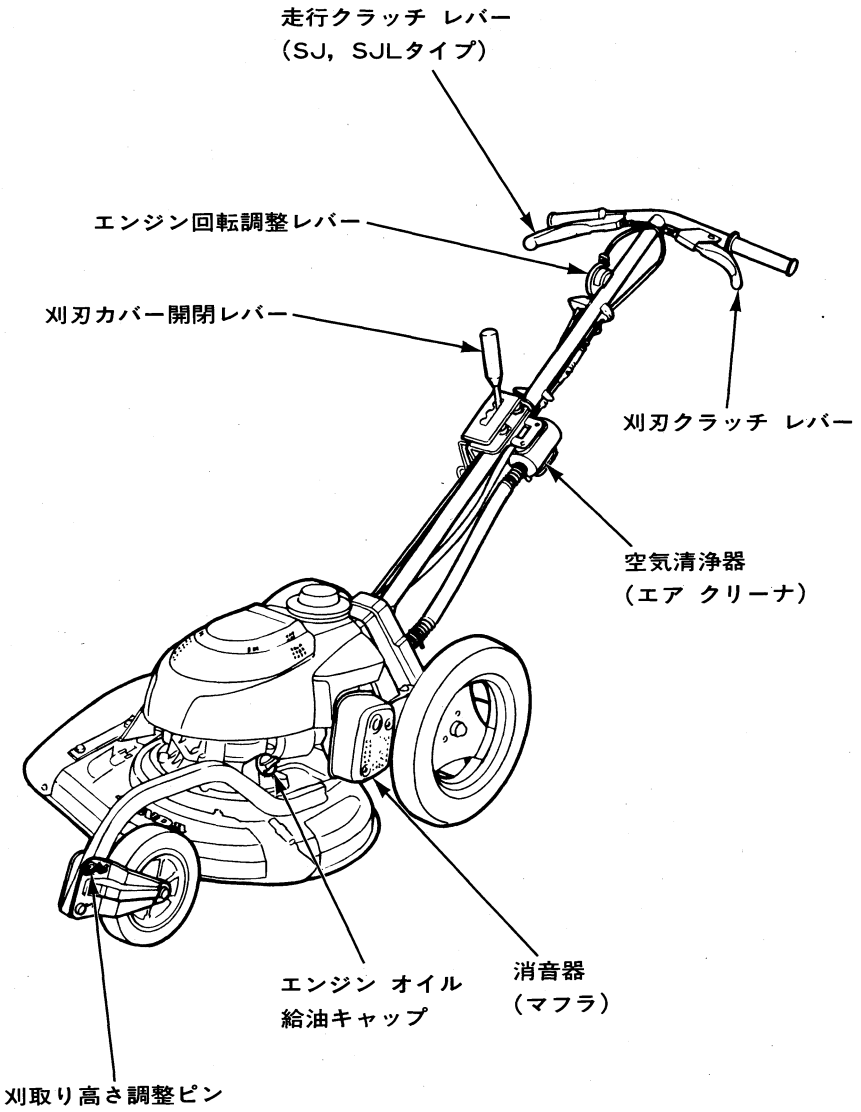
★作業後はカバー等をかけるか、屋根のある場所に保管してください。

★次の作業のために機械の点検、整備を行いましょう。(P.32作業前点検参照)

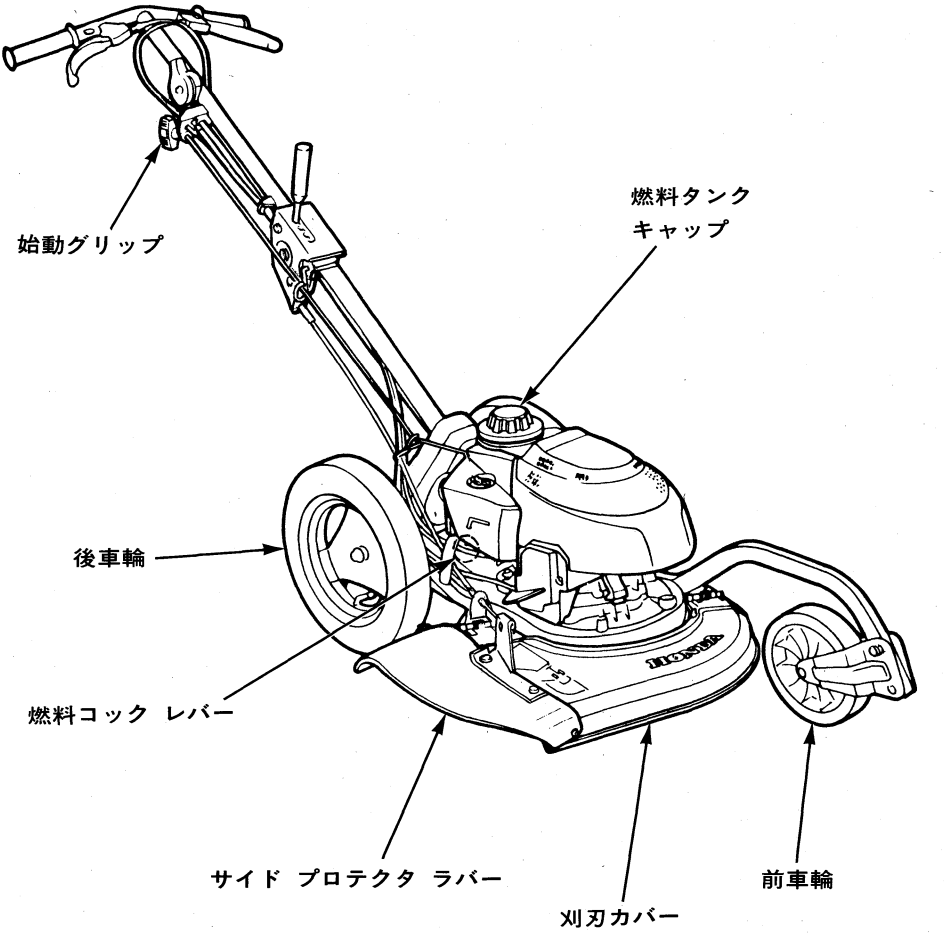
★トラック等への積降し時は、燃料コック レバーを“止”にしてください。

★運搬時には転倒や落下しないよう、確実に固定してください。

各部の名称と取り扱

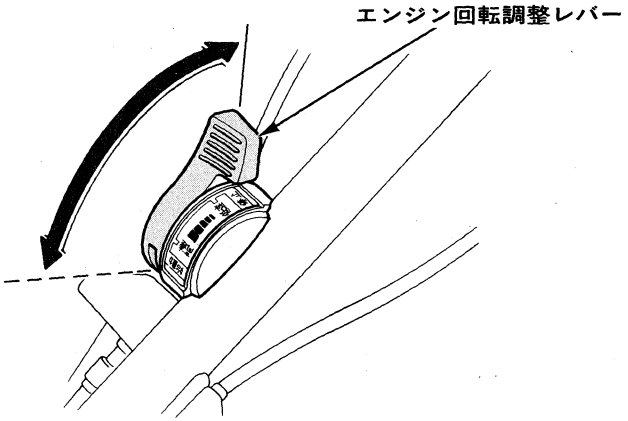

走行クラッチ レバー
(SJ, SJLタイプ)
エンジン回転調整レバー
刈刃カバー開閉レバー
刈刃クラッチ レバー
空気清浄器
(エア クリーナ)
エンジン オイル
給油キャップ
消音器
(マフラ)
刈取り高さ調整ピン

いをおぼえましょう



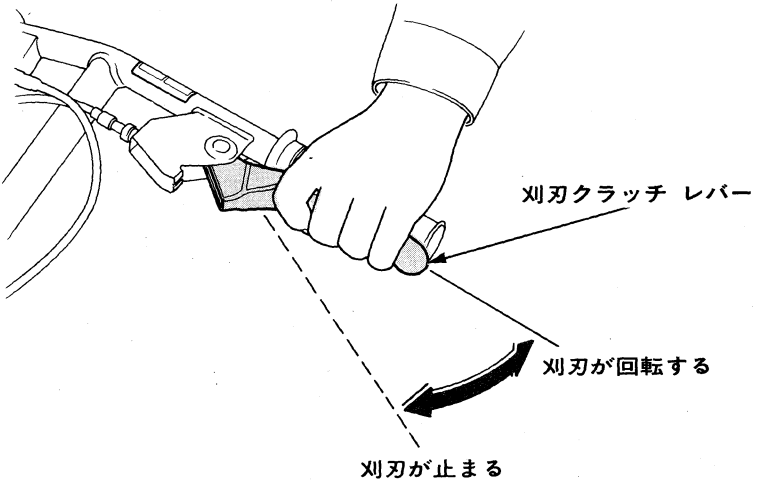
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。
エンジン始動時、運転中、停止時に操作します。



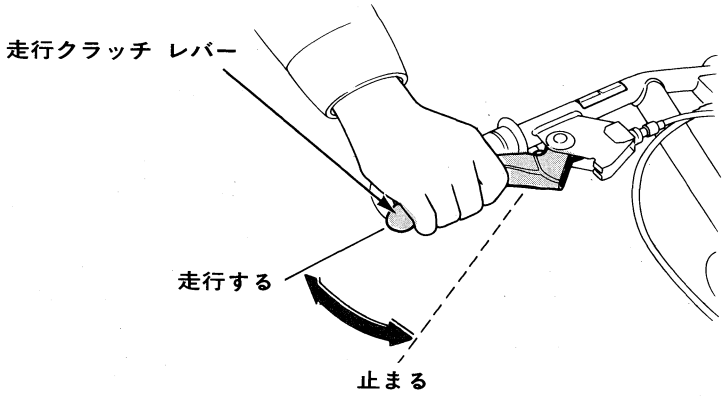
刈刃クラッチ レバー

レバーを握ると刈刃が回転し、はなすと刈刃は止まります。



走行クラッチ レバー(SJ, SJL タイプ)

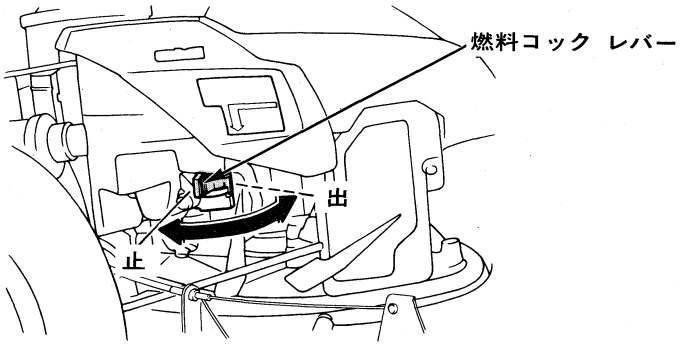
刈刃クラッチ レバーを握りながら、走行クラッチ レバーを握ると走行し、はなすと止まります。最初に刈刃クラッチ レバーを握りエンジン回転が安定してから、走行クラッチ レバーを握って作業に入ってください。



燃料コック レバー

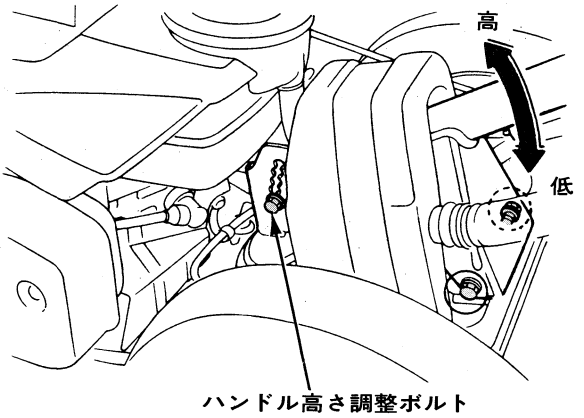
燃料タンクから気化器までの燃料通路を開閉する時に操作します。
操作は確実に**"止""出"**の位置に合わせてください。

注意
・運搬時、保管時はレバーを"止"の位置に合わせてください。"止"にしないと燃料がもれることがあります。



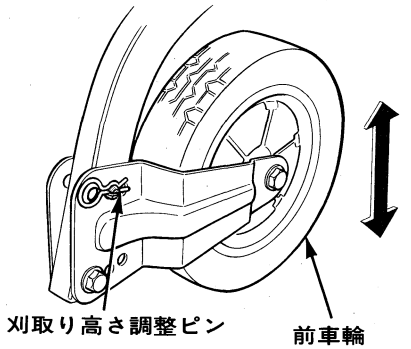
ハンドル高さ調整ボルト

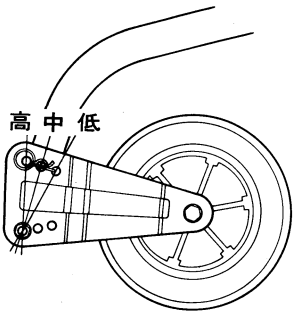
ハンドル高さを調整する時に操作します。
調整ボルトの位置を変える事により５段階に調整できます。(27頁参照)



刈取り高さ調整ピン

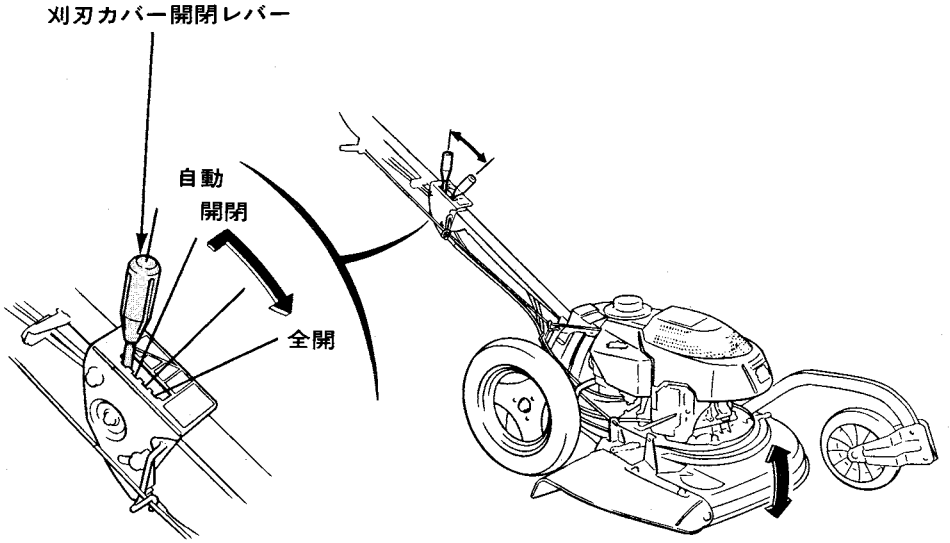
草の刈取り高さを調整する時に操作します。
ピンの取付位置を変える事により３段階に調整できます。(25頁参照)





刈刃カバー開閉レバー

刈刃カバーを開閉するときに操作します。(27頁参照)
通常は**"自動開閉(閉)"**にしてご使用ください。



エンジンをかける前に点検しましょう

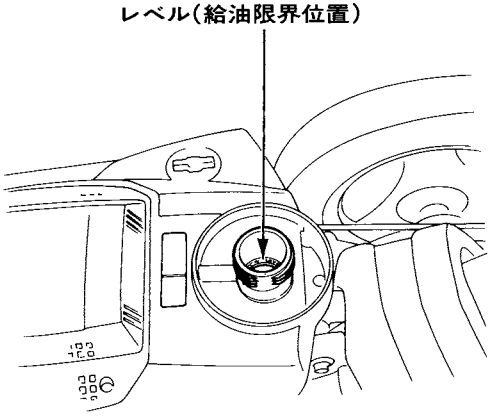
★点検は平坦な場所で草刈機を水平にし、エンジンをとめて行ってください。

ガソリンの点検

点検

燃料給油キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置)までガソリンがあるか点検します。

少ない場合は補給してください。



補給

- キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置)まで補給してください。

  使用ガソリン：無鉛(レギュラ ガソリン)

  タンク容量：0.9ℓ

- 補給後、キャップを完全に締付けてください。

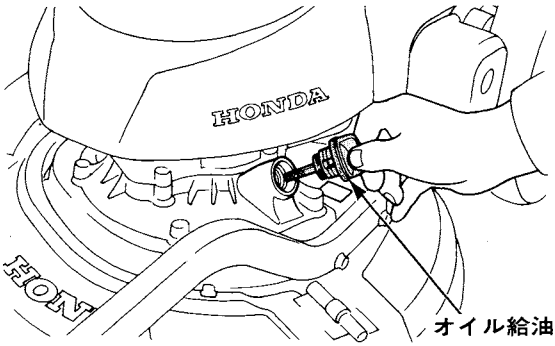
注意

- 火気厳禁
- 必ずエンジンをとめて補給してください。
- ガソリンはこぼさないでください。もしガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動してください。
- 本機に貼られている注意ステッカにしたがってください。

エンジン オイルの点検

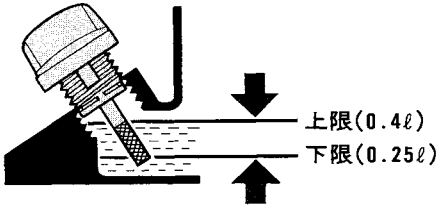
点検

オイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検します。
油面が下限に近い時には、上限までオイルを補給してください。
汚れや変色が著しい場合は交換してください(交換時期、方法は35～36頁参照)



補給

- キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。
- 指定オイル：ホンダ純正ウルトラ ネオ汎用機用(SAE30)、ウルトラ-U(2輪車用)またはAPI分類SE級相当のSAE10W-30エンジン オイル
- 寒冷時、使用する場合はウルトラ-U(2輪車用)またはAPI分類SE級相当のSAE10W-30エンジン オイルを使用してください。



注意
- キャップは、手で確実に締付けてください。
- 締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。

空気清浄器(エア クリーナ)の点検

〈点検〉

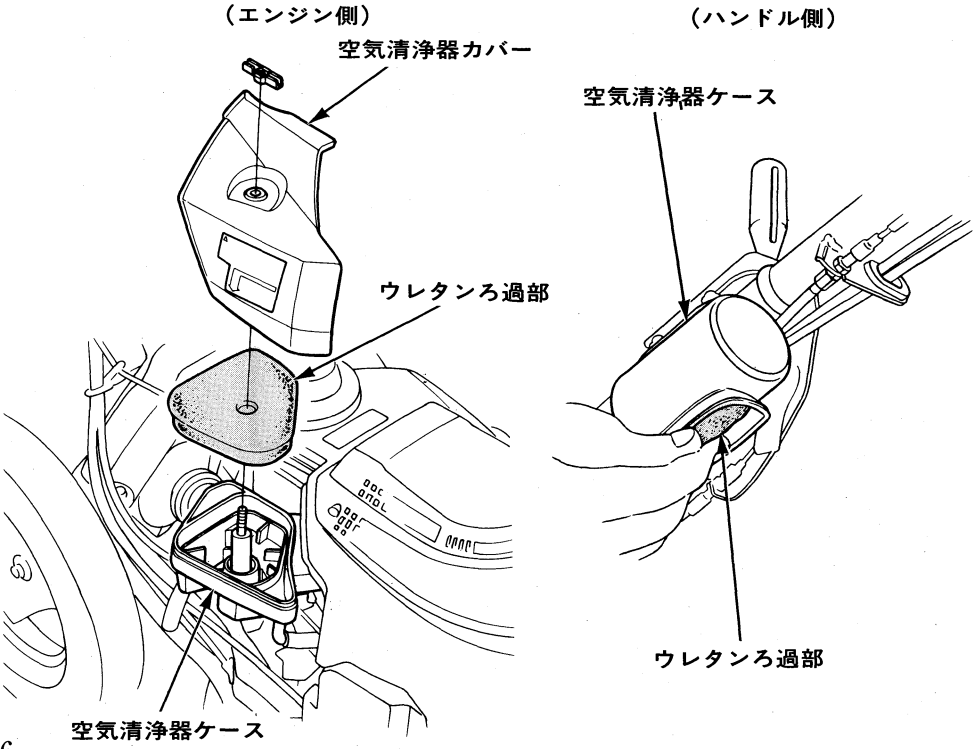
1．空気清浄器カバーを外し、ウレタンろ過部を取出します。(エンジン側)
　空気清浄器ケースからウレタンろ過部を取出します。(ハンドル側)

2．ウレタンろ過部の汚れを点検します。

3．汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。
　(清掃方法は37頁参照)

注意

- 空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動してカバーが外れることがあります。
- 空気清浄器カバーやウレタンろ過部を装備しなかったり、取付け不良をすると、エンジンに悪影響を与える原因になります。
- エンジン側のウレタンろ過部を取外す時は、空気清浄器ケース内にゴミホコリ等を落さないよう注意してください。



刈刃の点検

注意

・作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。
・作業時に縁石や木の根などに刈刃が当り、曲りや欠損が生じていないか点検してください。
・刈刃の摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、運転者や附近に居る人に当ったりして、重大な人身事故を招くことがあります。
・刈刃の点検を行う時は、必ず皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。

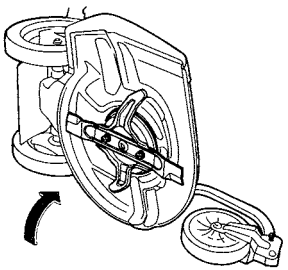
～1.エンジンを停止し、点火プラグ キャップを外します。

～2.燃料コック レバーを**"止"**にします。

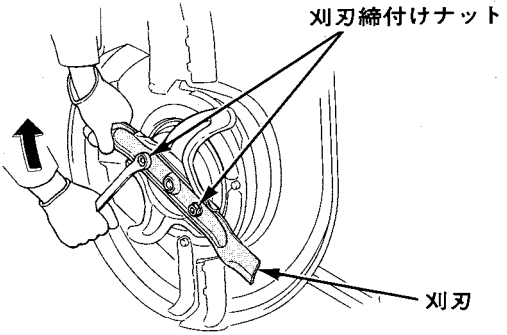
～3.草刈機を左側に傾斜させてください。

注意

・傾斜したまま長時間放置しておくと、後の始動性が悪くなることがあります。

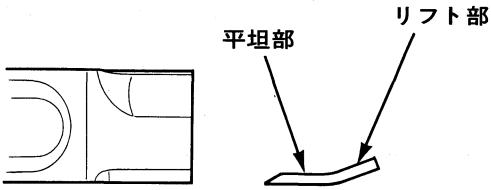


～4.刈刃締付けナットがゆるんでいないか点検します。



～5.刈刃の割れ、曲り、摩耗を点検します。

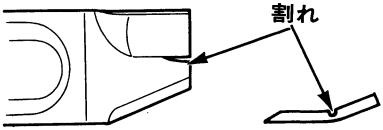
新品



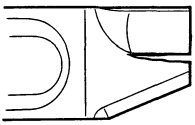
下図のように異常な状態になっていたら交換してください。(42～43頁参照)

交換

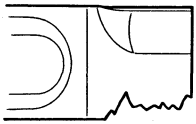
割れ



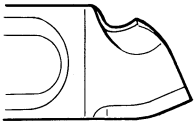
注意 特にリフト部に割れが発生すると、刃先が切損して飛び出し大変危険です。絶対に使用しないでください。



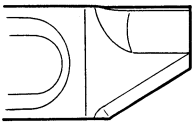
欠損



曲り



摩耗

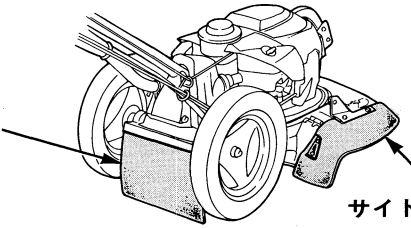


・乾燥した土や砂を含んだ場所で使用すると刈刃の摩耗が早い為頻繁に点検してください。

サイド プロテクタ ラバー、リヤー プロテクタ ラバーの点検

ラバーに損傷がなく正しく取付けられているか点検してください。
損傷している時には、補修又は交換してください。

注意 ラバーを取付けないで刈取作業をしないでください。作業範囲内に石等の異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。人身及び物損事故が起きないよう十分注意してください。

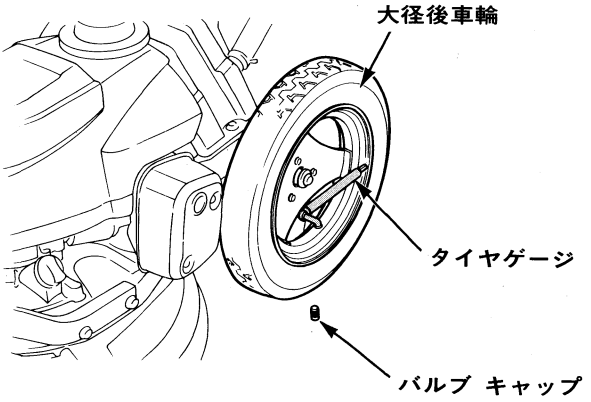


タイヤ空気圧の点検

空気圧が正規かタイヤ ゲージで点検してください。正規でない場合はバルブキャップを外して、空気を注入してください。

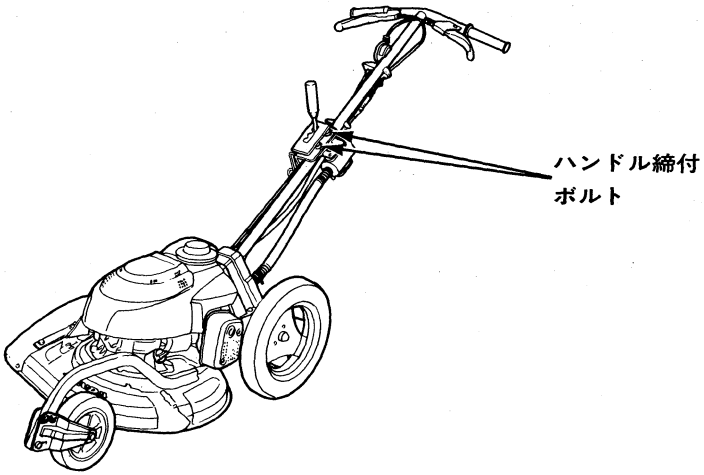
タイヤ サイズ：2.50－8－2 PR

標 準 空 気 圧：1.5±0.2kg／cm²



各部の締付け点検

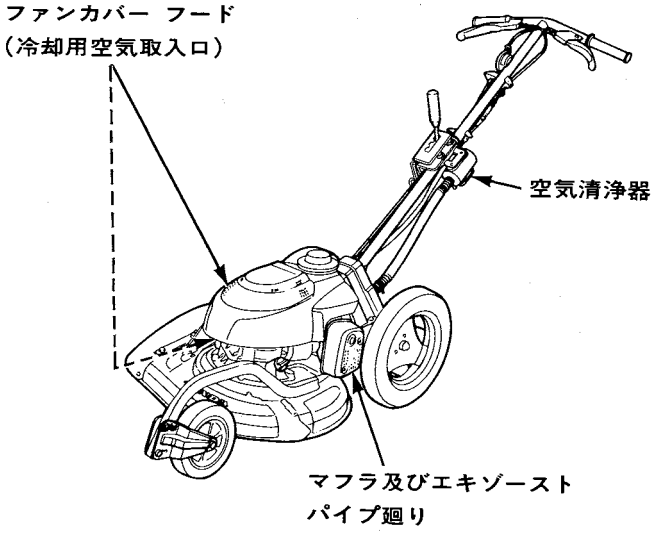
・ハンドル締付ボルトのゆるみはないですか。

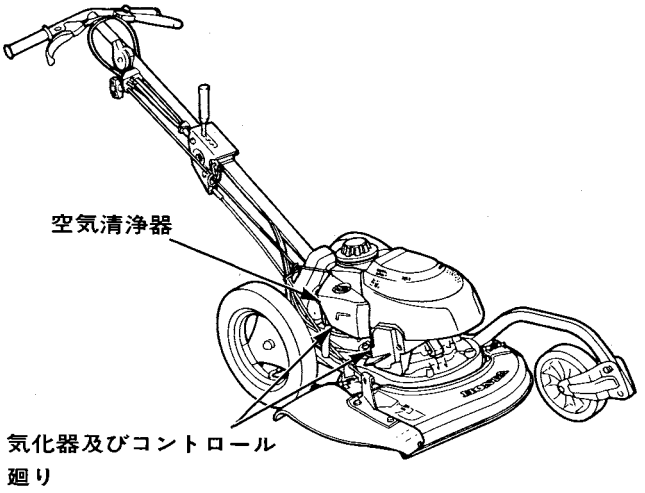


各部の清掃点検

本機(特に下記指定箇所)に刈った草やホコリが付着していないか点検してください。

汚れている時には十分清掃してください。

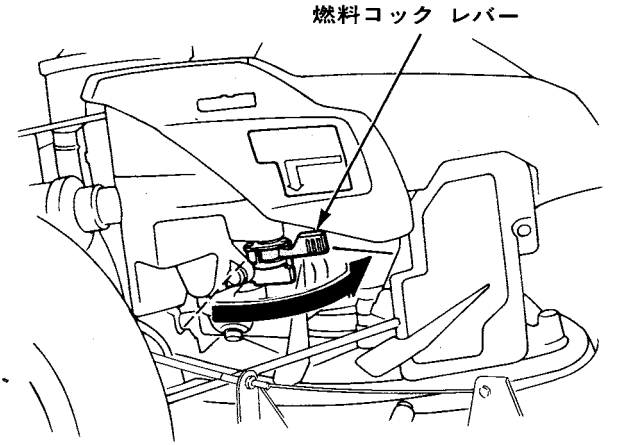




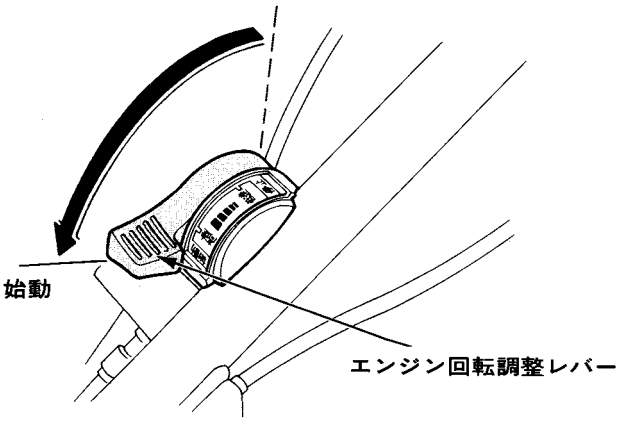
エンジンのかけかた

〔とめかたをよく覚えたうえでエンジンをかけてください〕

1．燃料コック レバーを**“出”**に合わせます。

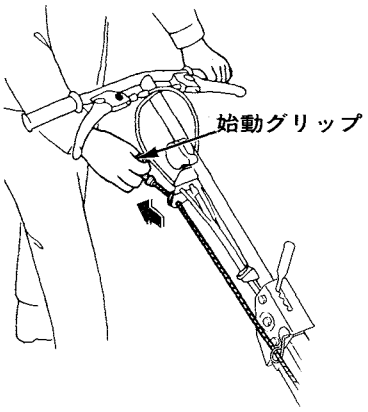


2．エンジン回転調整レバーを**“始動”**の位置に合わせます。
エンジンがあたたまっている時、または気温が高い時には**“低速”**の位置に合わせます。



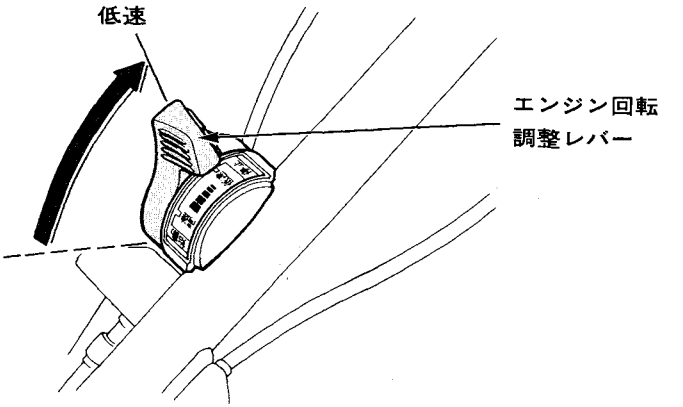
3．始動グリップを引いて重くなる位置をさがし、勢いよく引きます。

注意
- 始動グリップは手を添えて静かに戻してください。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。



- エンジンの始動は、草刈機が安定する平坦な場所で行ってください。
- 始動グリップを引く時、後方に人がいないか確認してください。

4．エンジンが暖まったら、エンジン回転調整レバーを**“低速”**にします。
- 暖気運転を行うことは、エンジン各部にオイルをゆきわたらせ、エンジンの寿命を長持ちさせます。



運　転　操　作　の　し　か　た

☆安全な作業を行うために、安全にお使いいただくための全項目を十分理解して行ってください。

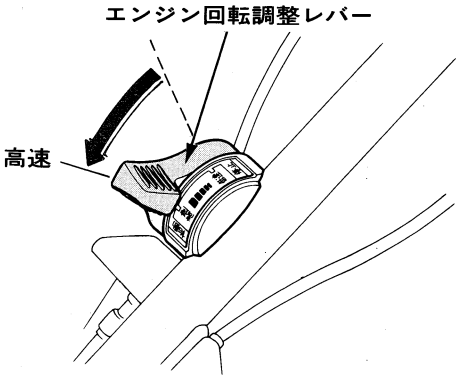
1 エンジン始動

22～23頁のエンジンのかけかたに従ってエンジンを始動します。

2 運転操作

1．エンジン回転調整レバー

エンジン回転調整レバーを“**高速**”にします。



注意

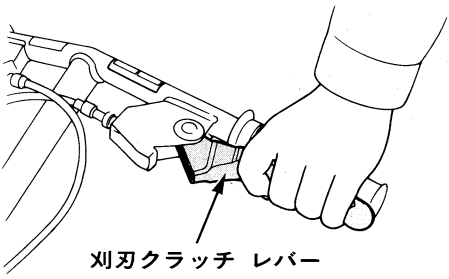
- 草刈機からはなれる時は必ずエンジン回転調整レバーを“停止”位置にしてください。

2．刈刃クラッチ レバー

刈刃クラッチ レバーを握ると刈刃が回転し、はなすと止まります。

注意

- レバーは確実に操作してください。半クラッチ状態を多用すると、クラッチの異常摩耗や焼付きの原因となります。
- 刈刃クラッチ機能が正常に働いていることを確認してください。異常がある場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。

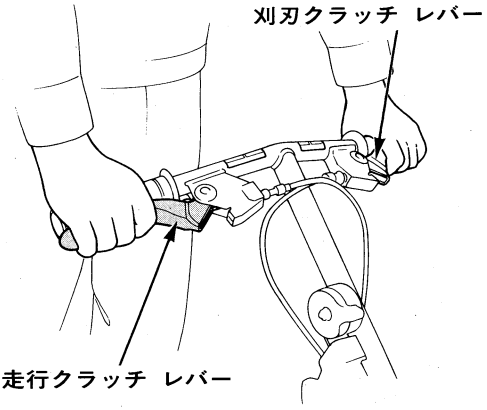


3．走行クラッチ レバー(SJ、SJLタイプ)

走行クラッチ レバーを握ると草刈機が走行し、はなすと止まります。

注意

・通常の草刈り作業は先に刈刃クラッチ レバーを握り、エンジン回転が十分上がってから、走行クラッチ レバーを握って行ってください。エンジン回転が低いまま作業を行うと、エンジンが止まったり仕上がりが不均一になることがあります。



3 刈取り作業

1．刈取り高さの調整

刈取り高さ調整ピンの位置を変える事により3段階(30～70mm)まで調整することができます。

1段—30mm　2段—50mm　3段—70mm

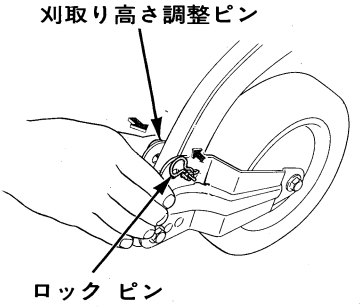
・刈取り高さは、地面の条件により、上記の数値と異なる場合があります。

注意

・調整は必ず、平坦な場所でエンジンを止めて行ってください。

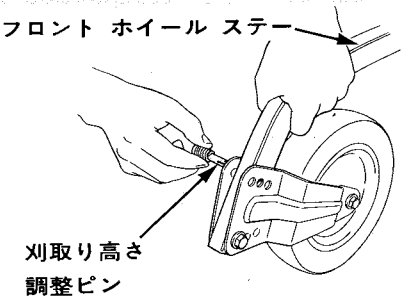
《調整のしかた》

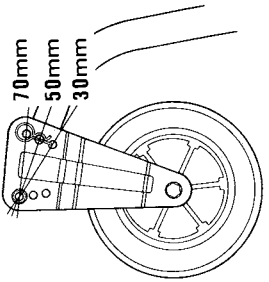
—1.刈取り高さ調整ピンの頭を押し込んでロック ピンを抜きます。



—2.フロント ホイール ステーを少し持ち上げて刈取り高さ調整ピンを抜き、刈りたい高さに合わせて刈取り高さ調整ピンを差し込みます。

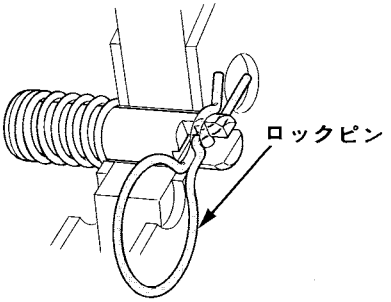
注意 **前車輪が地面に付いている状態で高さ調整を行うと、草刈機の重みで急に最下段まで下がり危険です。必ずフロント ホイール ステーを持ち上げてから行ってください。**

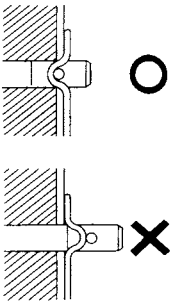




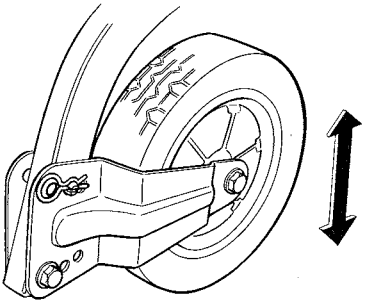
—3.刈取り高さ調整ピンの頭を押し込んでロック ピンを差し込みます。

・ロック ピンは下図のように長い方のピンの足についている突起が内側を向くように取付けます。



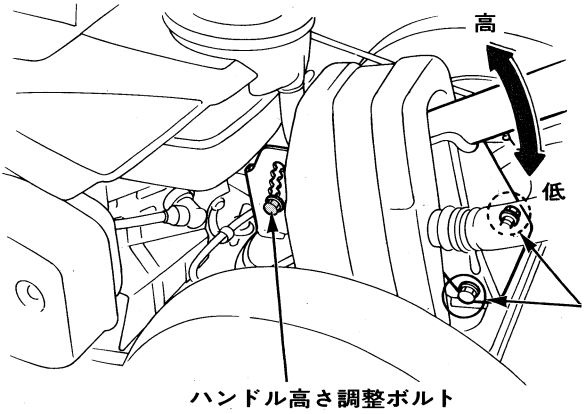


—4.フロント ホイール ステーを少し持ち上げて刈取り高さ調整ピンが戻されロック ピンが固定されたことを確認します。



2．ハンドル高さの調整

調整ボルトの位置を変える事により５段階に調整できます。作業する人の身長に合わせ、作業しやすい位置にハンドル高さを調整してください。



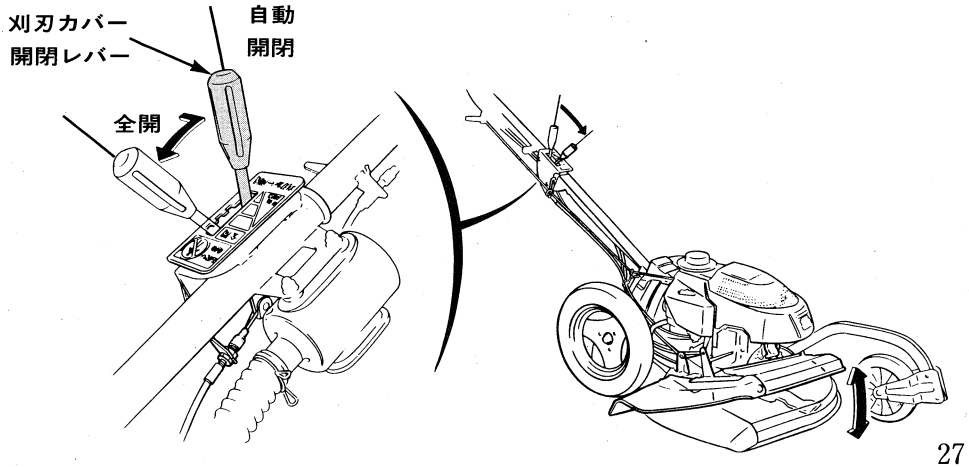
3．刈刃カバー開閉の調整

通常作業では**“自動開閉(閉)”**の位置で使用してください。

極度に柔かい密生草や放出性が悪い場合に使用してください。

注意　・刈刃カバーを開けて使用するときは、石等が飛びやすくなり危険ですので周囲には十分注意してください。

短かい草をきれいに仕上げる時は、**“自動開閉(閉)”**の位置で行ってください。

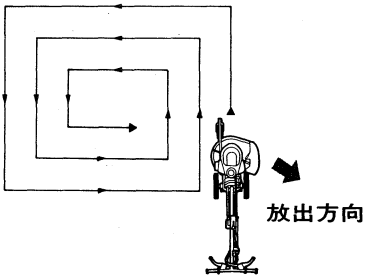


刈取り作業はエンジン回転を落とさず行うことが重要です。下記の要領を参考にして、草の種類、草地条件に適した刈りかたをしてください。

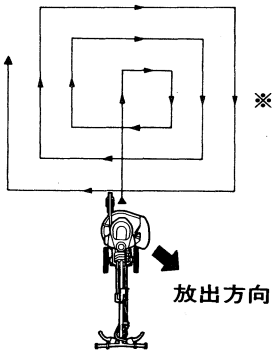
〈刈取りパターン〉

刈取った草の放出性をよりよくするため、次のような刈りかたをおすすめします。

（左回り）



（右回り）



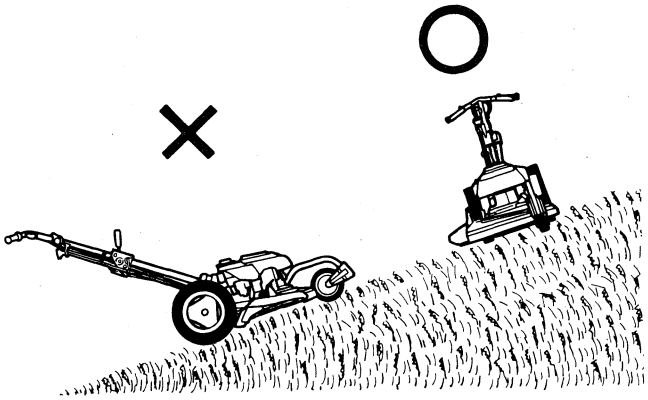
※最初は中割刈りのため放出性が劣る。

〈斜　面〉

・斜面での草刈りは上下方向ではなく、横方向(等高線方向)に行ってください。

・斜面上での方向転換は十分注意を払ってください。

・20°以上の斜面では草刈機を使用しないでください。



〈起　伏〉

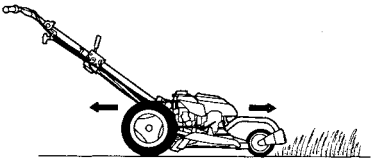
・起伏の多い所での草刈りは十分に速度を落とし、足もとに注意してハンドルをしっかりと握り作業してください。

●濡れ草や軟らかい密生した草でエンジン回転が下がる時には、次のいずれかの方法により作業を行ってください。

1.走行を停止し、エンジン回転の回復後、再度作業を行う。

2.手押し刈りでエンジン回転が低下しない車速で作業を行う。

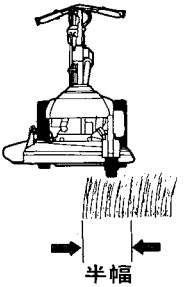
3.必要に応じて前後に動かしながら作業を行う。



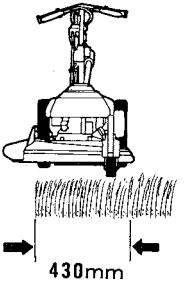
4.草の条件に応じて刈幅を狭ばめる。

（例）

半幅刈



全幅刈



5.刈取り高さを上げる。（25頁参照）

別売部品

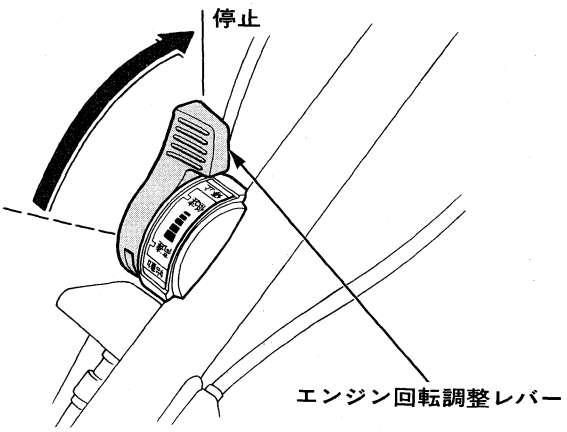
より多様な刈取り作業に適応させるため、下記の別売部品が準備されています。尚別売部品の選定、交換は必ずお買いあげ販売店にご相談ください。

部品名	適応する草	効果
20㎜ヒネリ刈刃	・軟らかく、密生した草 ・朝露や雨降り後のぬれた草	草の吸い上げ、放出性に優れ、ハウジング内への草の付着を防ぐ。
0㎜ヒネリ刈刃	・茎が太く、硬く密生した草 ・乾いた草や枯れ草	硬い草の刈取り性に優れ、草やホコリの舞い上がりを防ぐ。
減速プーリ及びVベルト		車速を約20%ダウンさせ、不整地や狭い場所での取扱い性を向上させる。

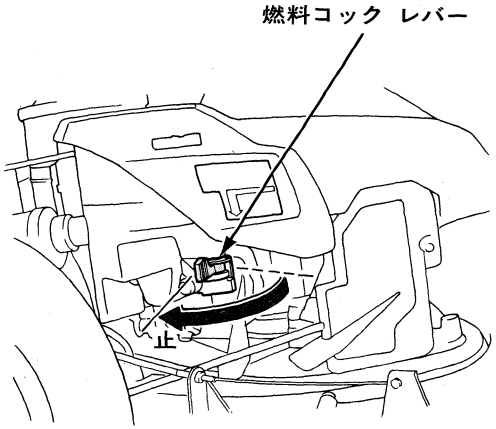
エンジンのとめかた

1．走行クラッチ レバーと刈刃クラッチ レバーをはなします。

2．エンジン回転調整レバーを**“停止”**にします。



3．燃料コック レバーを**“止”**に合わせます。

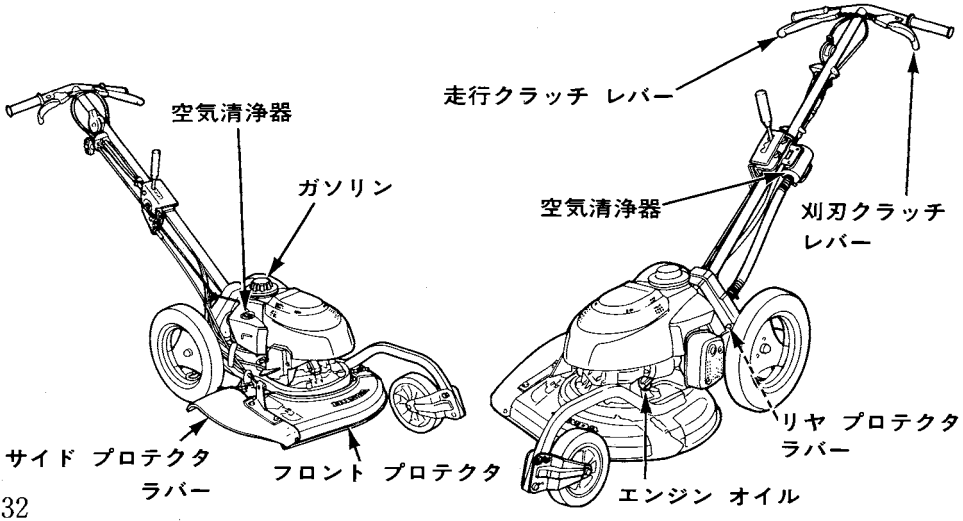


定期手入れを行いましょう

作業前点検

いつも安心してご使用していただくためには作業前の点検、整備が必要です。
忘れずに必ず行ってください。

- 各部の清掃……ファンカバー フード、マフラ、エキゾーストパイプ、気化器及びコントロール廻りに刈取った草やホコリが付着してないか
- 各部の締付け……ゆるみ、がたはないか(特に刈刃まわり)
- 刈刃の点検……割れ、曲り、摩耗はないか
- エンジン オイル ……規定量入っているか
  洩れはないか
- 空気清浄器……よごれていないか
- フロント プロテクタ、サイド プロテクタ ラバー、
  リヤ プロテクタ ラバー……装着状態・損傷はないか
- ガソリン……残量は
- 刈刃クラッチ レバー ……作動確認
- 走行クラッチ レバー ……作動確認
- 異常個所……前回悪かった所
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

お買いあげいただきました草刈機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

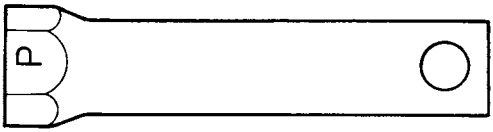
点検項目＼点検時間		作業前点検	初回 20時間目	50時間 運転毎	100時間 運転毎	300時間運転毎又は1年に1回
エンジン オイル	点検	○				
	交換		○		○	
空気清浄器	点検	○				
	清掃			○〈注 1〉		
刈刃の状態 刈刃締付ナット	点検 締付	○				
刈刃ホルダ締付ボルト	締付				○〈注 2〉	
サイド プロテクタ ラバー リヤー プロテクタ ラバー	点検	○				
タイヤ空気圧	点検	○				
各部の清掃	清掃	○				
点火プラグ	清掃 調整				○	
スパーク アレスタ	清掃				○	
駆動ベルト (SJ, SJLタイプのみ)	点検 調整				○〈注 2〉	
刈刃クラッチ ワイヤ 刈刃クラッチ機能	点検 調整				○〈注 2〉	
刈刃カバー開閉ワイヤ	点検 調整				○	
刈刃クラッチ ブレーキ シュー摩耗	点検				○〈注 2〉	
エンジン回転調整ワイヤ	調整				○〈注 2〉	
走行クラッチ ワイヤ (SJ, SJLタイプのみ)	調整					○
吸入、排気弁、すき間	点検 調整					○〈注 2〉
燃焼室(バルブ摺合せを含む)	清掃					○〈注 2〉
燃料タンク、燃料ろ過網	清掃					○〈注 2〉
燃料チューブ	交換	3年毎〈注 2〉				

〈注 1〉ホコリの多い所で使用した場合、空気清浄器の清掃は、10時間毎又は1日1回行ってください。

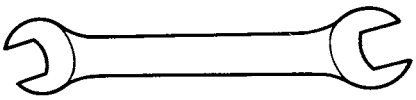
〈注 2〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

携帯工具

工具は、点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。



プラグ レンチ



10×12両口スパナ

●エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：20時間目、以後：100時間運転毎

《指定オイル》

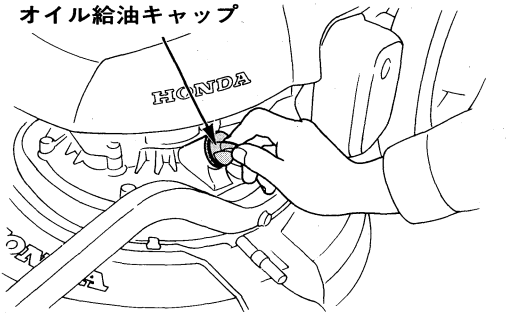
ホンダ純正ウルトラ ネオ汎用機用(SAE30)、ウルトラ-U(２輪車用)またはAPI分類SE級相当SAE10W-30のエンジン オイル。

・寒冷時使用する場合は、ウルトラ-U(２輪車用)またはAPI分類SE級相当のSAE10W-30エンジン オイルをご使用ください。

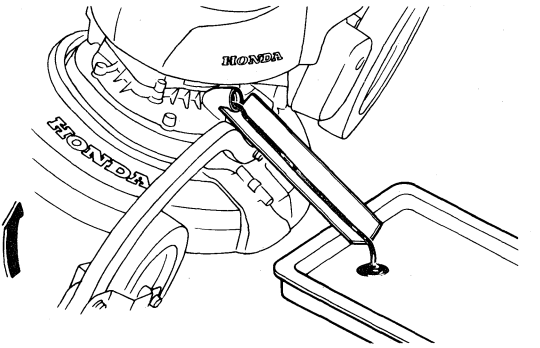
《規定量》0.4ℓ

《交換のしかた》

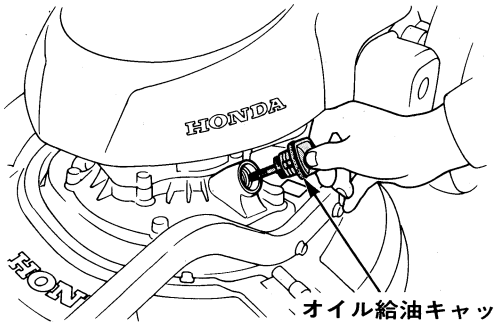
１．オイル給油キャップを外します。

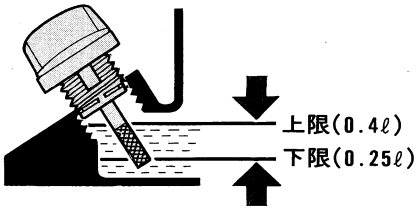


２．本機を左側へ傾けて、オイルを抜きます。



3．エンジン オイルを給油キャップのレベル ゲージで確認しながら上限まで注入します。（給油キャップをねじ込まず差し込んで確認します。）





4．注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。

注意

- エンジン停止直後は、エンジン本体、油温が高くなっていますので、手でさわれる温度になってからオイル交換を行ってください。やけどをする恐れがあります。
- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- 給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがにじみ出ることがあります。

空気清浄器(エア クリーナ)の清掃

空気清浄器が目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時間》

50時間運転毎

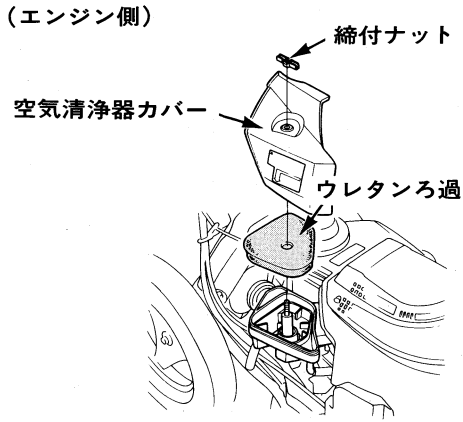
ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間毎。

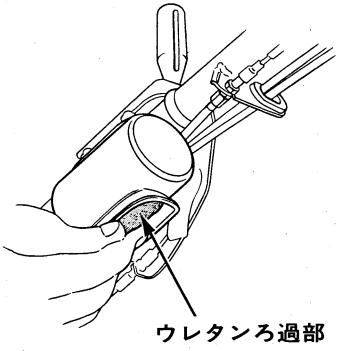
《清掃のしかた》

１．ウレタンろ過部を取外します。

エンジン側：締付ナットをゆるめ、空気清浄器カバーを外してろ過部を取外します。

ハンドル側：ドライバ、指等で取外します。





２．ウレタンろ過部を清掃します。

エンジン側：洗油で洗浄し、よく絞って乾かし、次にエンジン オイル(SAE 10W—30相当)に浸した後、固く絞ってから取付けます。

ハンドル側：洗油で洗浄し、よく絞って乾かしてから取付けます。

注意

・ろ過部を洗浄する時は火気厳禁
・空気清浄器カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部が変形して取付けられた場合、又はろ過部が取付けられていない場合にはエンジンの耐久性に著しく悪影響を与えます。

点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》

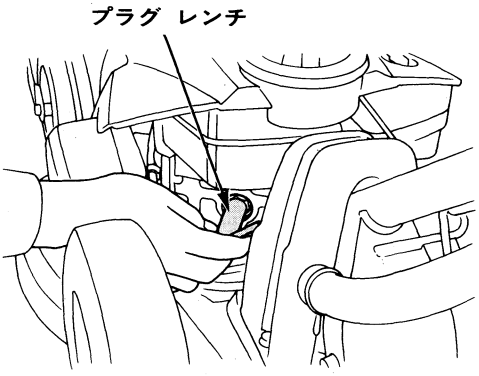
100時間運転毎

《清掃のしかた》

1．プラグ レンチで点火プラグを取外します。

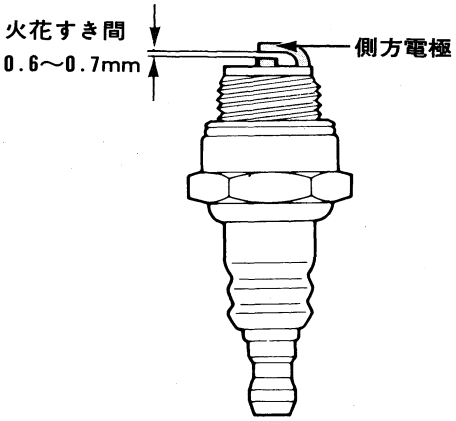
2．プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

・プラグ クリーナが無いときはワイヤ ブラシで汚れを落してください。



《調整》

・側方電極をつめ、火花すき間を0.6～0.7mmに調整します。



《標準プラグ》

BM-4 A(NGK)

W14M-U(ND)

注意

・標準以外のプラグを使用しないでください。
・エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないように注意してください。
・プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。

走行クラッチ ワイヤの調整(SJ，SJLタイプ)

走行クラッチ ワイヤの調整が完全でないと、クラッチがすべり走行できません。

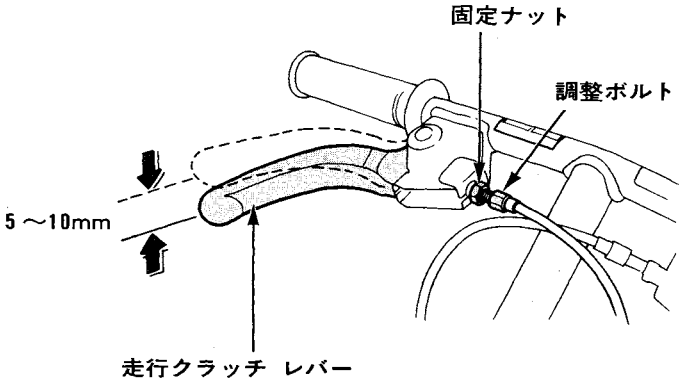
《調整時期》

300時間運転または１年１回

《調整のしかた》

1．レバー先端の遊びが５～10mmになるように調整します。

2．調整は固定ナットをゆるめ、調整ボルトをまわして行います。



3．固定ナットを確実に締付けます。

4．調整後、走行クラッチ レバーが正しく作動することを確認してください。

・走行クラッチ レバーを握った状態で草刈機をバックさせた時、大径後車輪がロックされ走行クラッチがつながっている事を確認する。

・走行クラッチ レバーをはなした状態で本機をバックさせた時、大径後車輪がまわり走行クラッチが切れている事を確認する。

刈刃カバー開閉 ワイヤの点検、調整

《点検、調整時期》

100時間運転毎

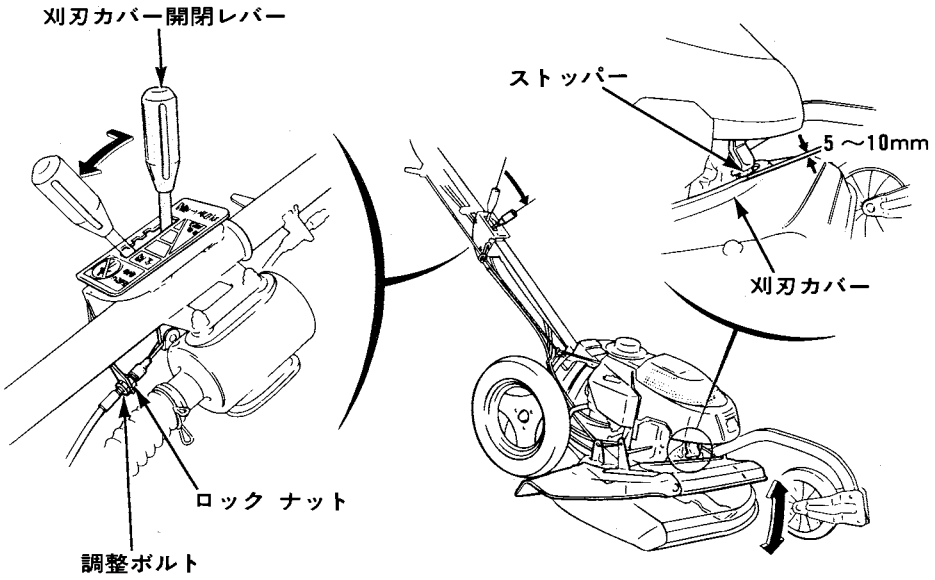
《点検》

刈刃カバー開閉レバーを**"全開"**の位置にして、刈刃カバーとストッパーのスキマが5～10mmになっていれば正常です。

《調整》

1．ロック ナットをゆるめ、調整ボルトをまわし調整してください。

2．調整後、ロック ナットを確実に締付けます。



スパーク アレスタの清掃

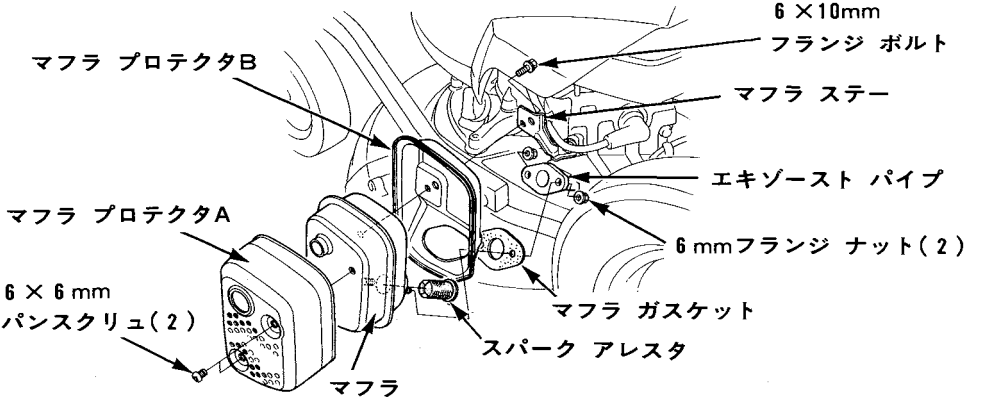
《清掃時期》

100時間運転毎

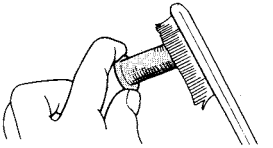
《清掃のしかた》

1．6×6 mmパンスクリュ、6×10mmフランジ ボルト、6 mmフランジ ナット(2)を外して、マフラ、マフラ プロテクタを取外します。

2．マフラよりスパーク アレスタを取外します。



3．ブラシでスパーク アレスタ スクリーンからカーボンを取除きます。スクリーンが破れている時は交換してください。



4．エキゾースト パイプ、マフラ ガスケットを点検し、損傷している時は交換してください。

5．スパーク アレスタをマフラに取付け、マフラ、マフラ プロテクタを取付けます。

注意 ・運転中はマフラが非常に熱くなっていますので冷えてから清掃を行ってください。

刈刃の交換、修正

注意
- 刈刃の取外し、取付け、修正、交換等の作業は適切な工具と整備技術をお持ちの方が実施してください。
- 刈刃の点検、修正、交換時の作業を行う時は必ず皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。
- 作業をする時は手をすべらさないように十分注意してください。

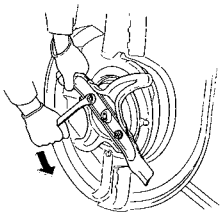
1．刈刃の交換

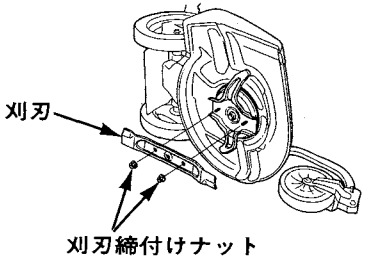
■刈刃の外しかた

～1.草刈機を傾斜させます。(17頁参照)

～2.丈夫な皮手袋などをした手で、刈刃の先端をしっかりとささえ、17mmのレンチで刈刃締付けナットをゆるめます。

～3.刈刃締付けナットを外し、刈刃を取外します。





注意
- 刈刃ボルトは5.5kg-mのトルクで締付けられています。
ナットが外れない場合は、お買いあげの販売店へお申しつけください。

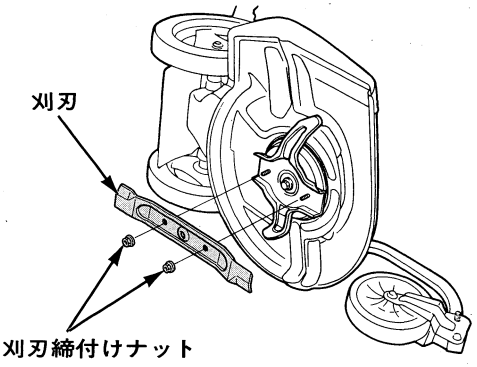
■刈刃の交換

注意
- 刈刃を交換する場合、ホンダ純正部品をご使用ください。

・あらかじめ予備の刈刃をお買求め頂き、手元に置いておかれることをお奨めいたします。

■刈刃の取付け

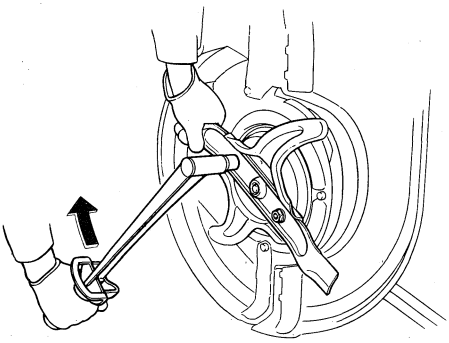
～1.下の図に従って刈刃と刈刃締付けナットを取付けます。

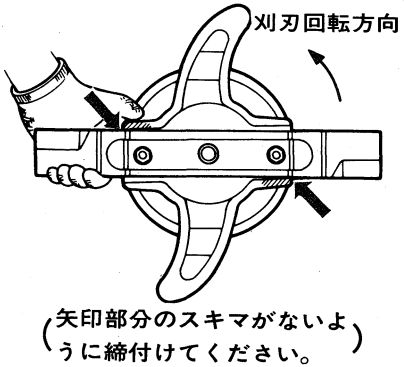


注意 ・刈刃締付けナットは専用ナットです。他の種類のナットを代用しないでください。

～2.丈夫な皮手袋などをした手で刈刃の先端をしっかりささえ、刈刃締付けナットをトルク レンチで締付けます。

指定トルク：5.5kg-m





（矢印部分のスキマがないように締付けてください。）

～3.刈刃を取付けてから、刈刃を手で回して刈刃カバーと刈刃が接触しないことを確認してください。

接触する場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

曲った刈刃は破損など思わぬ事故を招きます。

2．刈刃の修正

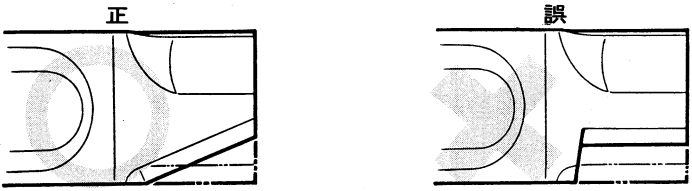
注意　作業をする時は手ですべらさないように十分注意してください。

～1.刈刃を取外します。(42頁参照)

～2.以下の要領で刈刃を研摩してください。

・刈刃を研摩する時は、刈刃をしっかりと保持してください。

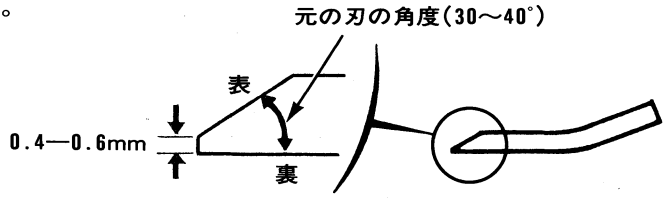
・刈刃を元の刃と平行に研摩しますと、折損の原因となります。
下図のように研摩してください。



・刈刃のバランスをくずさないように両側の刃を同量研摩してください。

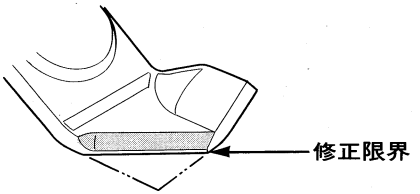
・刈刃を研摩する時は元の刃の角度を維持してください。

・刈先には0.4～0.6mm程度の平らな部分を残しておいてください。
カミソリのように刃先をとがらせますと、すぐに刃先が摩耗し切れ味が鈍ります。

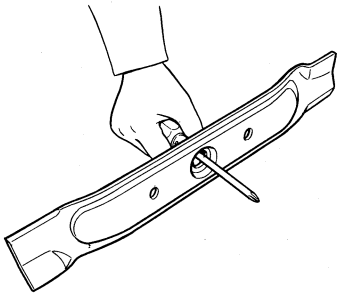


注意　グラインダーを使用する時は保護具等を付けて、安全に注意して使ってください。

・刃先が下の図の様になったら、新しい刈刃と交換してください。



・研摩後、ドライバを使って刈刃のバランスをテストしてください。左右どちらかがわずかに下ったら、下った方の刃の部分を再度研摩してください。バランスが取れない場合は刈刃を交換してください。



注意　刈刃のバランスがとれていないと、異常振動が生じ、草刈機を破損する恐れがあります。

長期間使用しない時の手入れ

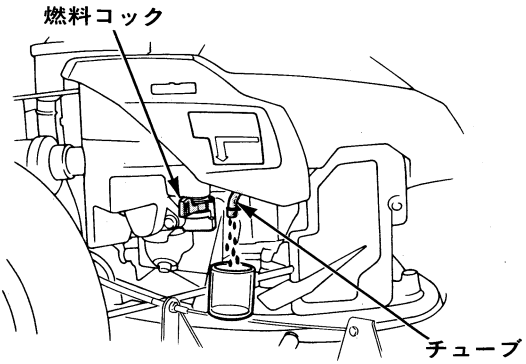
★長期間運転しない場合、または作業を終り長期格納する場合は次の手入れを行ってください。

エンジンを停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ キャップをプラグから外しへください。

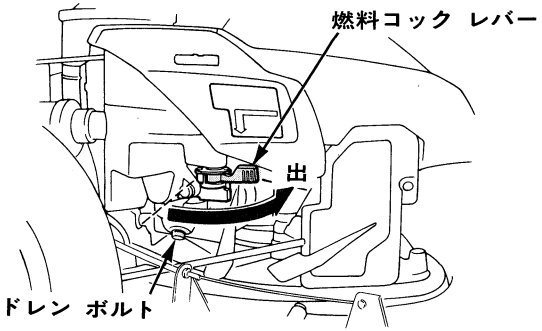
1 燃料タンク、気化器内のガソリンを抜いてください。

<抜き方>

1. チューブを燃料コックから外し、タンク内のガソリンを容器に受けてください。



2. 気化器内のガソリンは燃料コック レバーを**"出"**にしてドレン ボルトをゆるめ、容器に受けてください。



3. 完全に燃料が抜けたらチューブ、ドレン ボルトを元の状態に戻し、燃料コック レバーを**"止"**にしてください。

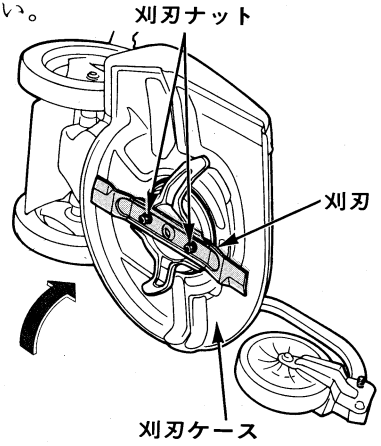
注意
- 燃料を抜く時は火気厳禁
- 風通しの良い場所で行ってください。
- 抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。

2 エンジン オイルを交換してください。（交換のしかたは35頁参照）

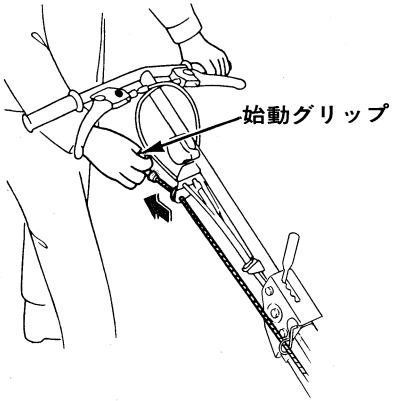
3 空気清浄器を清掃してください。（清掃のしかたは37頁参）

4 本機を左側に傾斜させ、刈刃及び各部を清掃し、締付けを点検してください。刈刃にエンジン オイルを塗布してください。

・刈刃ケース内側の塗装がはげている場合は、その部分の錆とりを行い防錆塗料を塗布してください。



5 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



6 カバー等をかけるか、屋根のある場所で風通しの良い場所に保管してください。

故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが草刈機を長持ちさせる秘けつです。

始動しない時は次の点を確かめましょう。

- ガソリンはありますか？
- エンジン　オイルは規定量ありますか？
- 点火プラグから火花が出ますか？

次の点検をする前に、エンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またウエスで完全にふきとってから行ってください。

プラグを取外し、プラグ　キャップに取付けプラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ　キャップ以外には触れないでください。)、エンジン回転調整レバーを〝低速〟の位置にして、始動グリップを強く引きます。この時プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

注意　・この点検は風通しのよい場所で行ってください。

- 始動方法は、取扱説明書通りですか？

走行クラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう。

- 走行クラッチ　ワイヤの調整方法が取扱説明書通りですか？

～～～～～～～少し時間をおいて
もう一度確かめましょう～～～～～～～

故障の修理
お買いあげ販売店へお申しつけください。

主　要　諸　元

名称（タイプ）	ホンダ草刈機UM17（PJ）	ホンダ草刈機UM17（SJ，SJL）	
型　　式	KAA		
エ　ン　ジ　ン	$GV100K_1$		
形　　式	単気筒、4サイクル、側弁式		
排　気　量	90 cm³		
内径×行程	50×46 mm		
点火時期	上死点前20°		
点火方式	トランジスタマグネト点火		
オイル容量	0.4 ℓ		
タンク容量	0.9 ℓ		
点火プラグ	BM—4A（NGK）、W14M—U（ND）		
フ　レ　ー　ム			
全　　長	1700 mm	←	
全　　幅	600 mm	←	
全　　高	950 mm	←	
刈　　幅	430 mm	←	
刈取り高さ	30 mm、50 mm、70 mm	←	
乾燥重量	31 kg	33 kg	
全装備重量	32 kg	34 kg	
変速段数		前進1段	
車　　速		0.8 m/s（SJ）	0.65 m/s（SJL）

主要諸元は製品改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

同梱部品の組付けかた

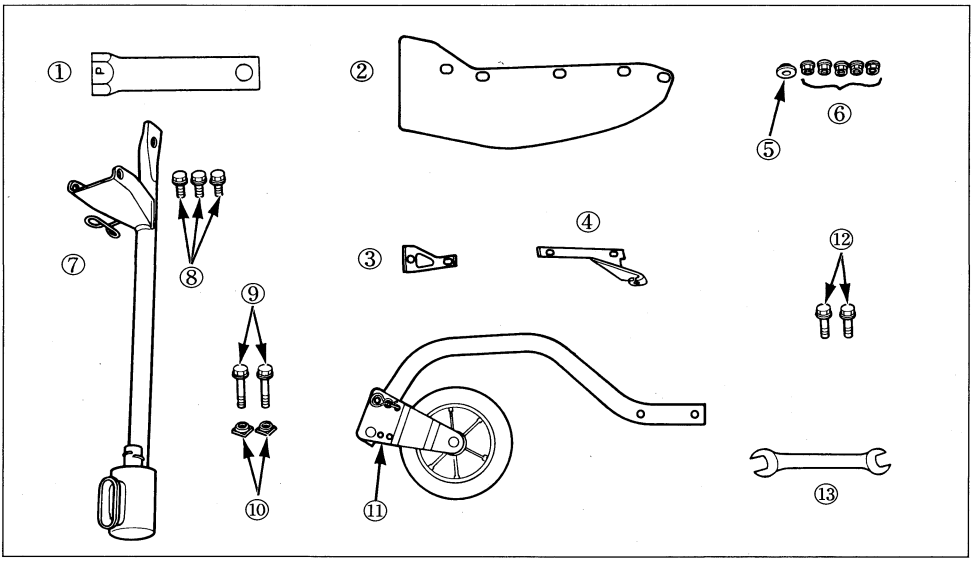
次の手順と要領で同梱部品を組付けてください。
なお、説明に使用しているイラストが一部実機と異なる場合がありますが、取付け関係は同じですのでご了承ください。

注意　組付け作業は必ずエンジンを止め、安全には十分注意して行ってください。

●同梱部品リスト

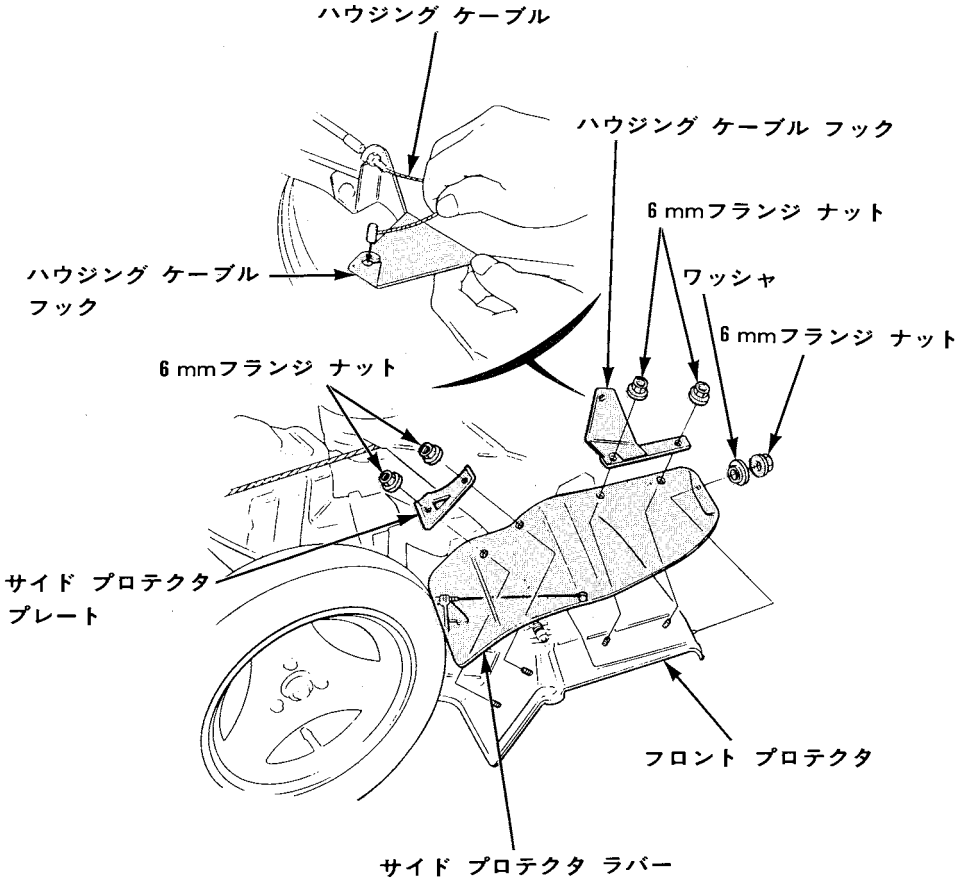
No	部品名	個数
①	プラグ レンチ	1
②	サイド プロテクタ ラバー	1
③	サイド プロテクタ プレート	1
④	ハウジング ケーブル フック	1
⑤	ワッシャ	1
⑥	6㎜フランジ ナット	5
⑦	ロアー ハンドル	1

No	部品名	個数
⑧	8×16㎜フランジ ボルト	3
⑨	8×45㎜フランジ ボルト	2
⑩	ハンドル取付けワッシャ	2
⑪	前輪車	1
⑫	8×35㎜フランジ ボルト	2
⑬	10×12両口スパナ	1



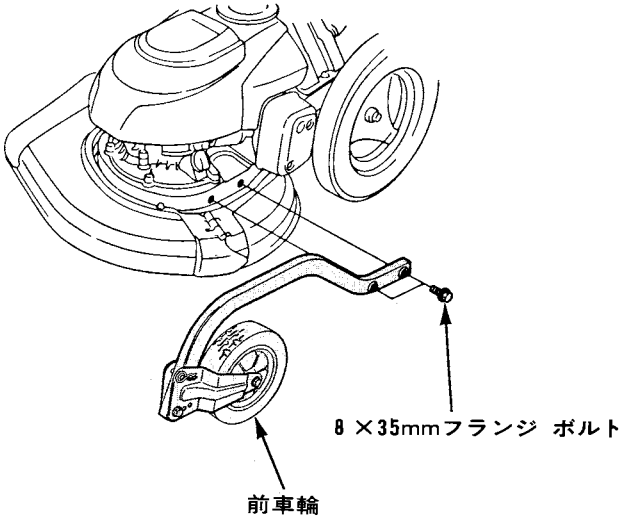
●サイド プロテクタ ラバー

1．フロント プロテクタにサイド プロテクタ ラバーをセットします。
2．ハウジング ケーブル フックにハウジング ケーブルの先端を通します。
3．6 mmフランジ ナットでサイド プロテクタ プレートとハウジング ケーブル フックを取付けます。
4．6 mmフランジ ナットとワッシャでサイド プロテクタ ラバーをとめます。



● 前車輪

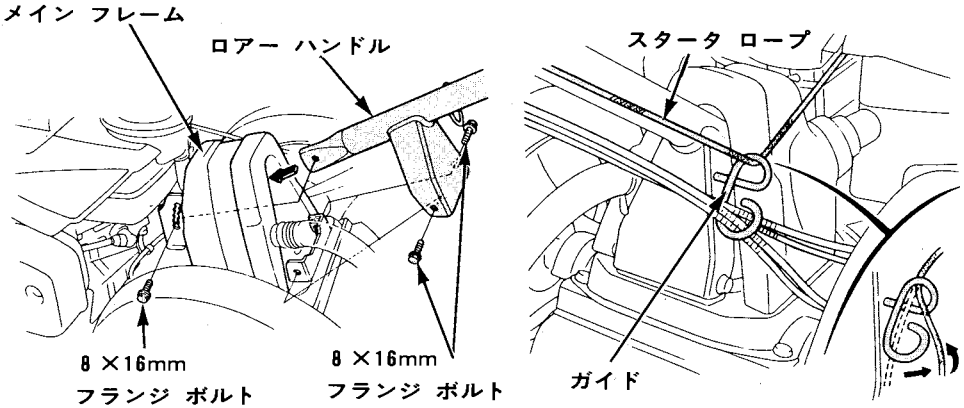
8 ×35mmフランジ ボルトで前車輪を確実に取付けます。



● ロアー ハンドル

1．メイン フレームにロアー ハンドルを差し込み、8 ×16mmフランジ ボルトで確実に取付けます。

2．スタータ ロープをロアー ハンドルのガイドに通します。



●アッパ ハンドル、空気清浄器ホース

1．ロア ハンドルから8×14mmフランジ ボルトを外します。

2．8×45mmフランジ ボルトを外しハウジング レバー ブラケットBとハンドル取付けワッシャをロア ハンドルから外します。

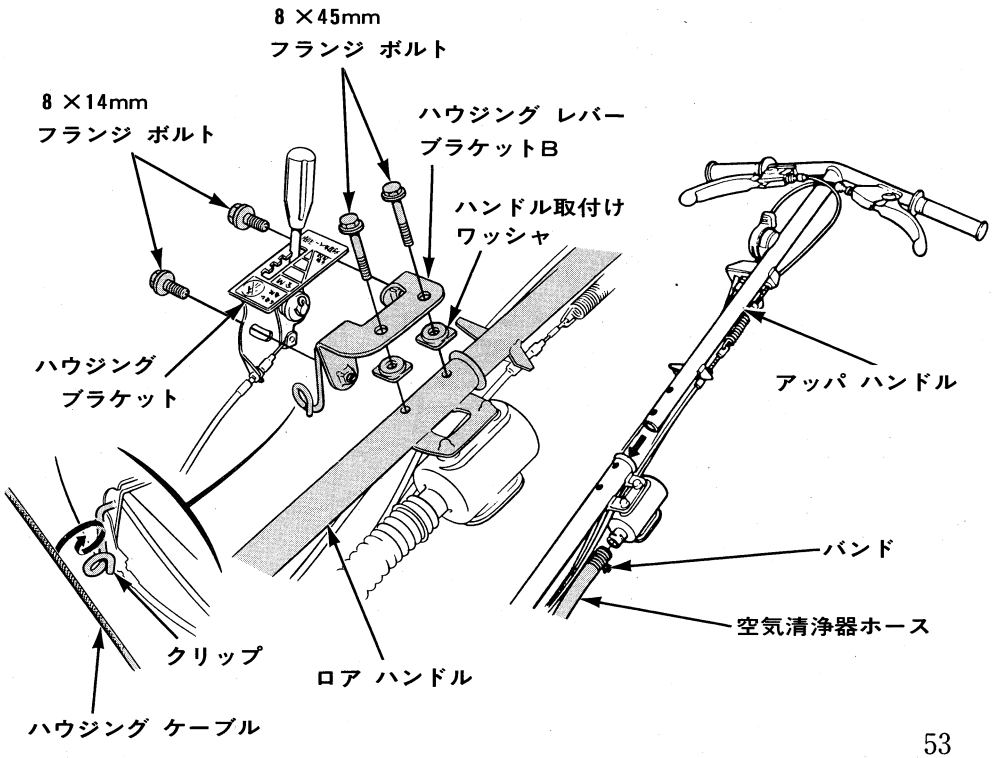
3．ワイヤの通しかたに注意して、アッパ ハンドルを手前に引きながらロアハンドルのジョイント部に入れます。

4．ハウジング レバー ブラケットBをハンドル取付けワッシャと8×45mmフランジ ボルトでロア ハンドルに取付けボルトを確実に締付けます。

5．ハウジング ブラケットを8×14mmフランジ ボルトでハウジング ブラケットBに取付けます。

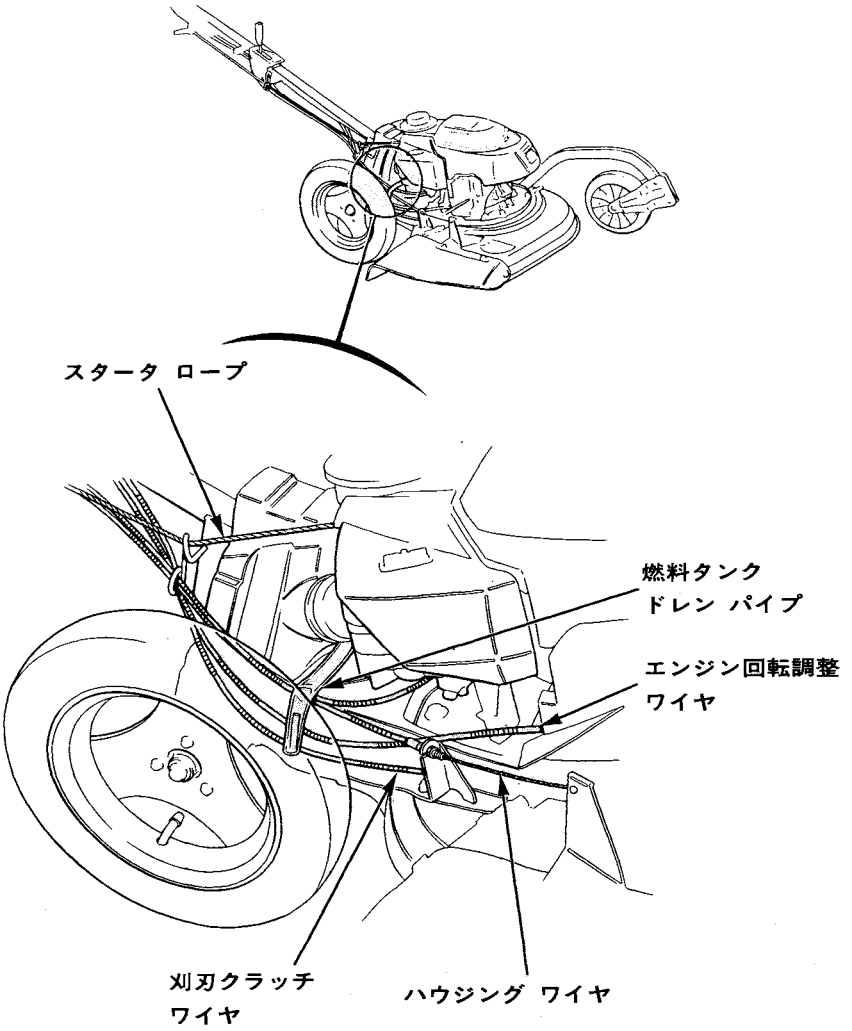
6．ハウジング ケーブルをブラケットのクリップに通します。

7．空気清浄器ホースを空気清浄器に取付けバンドで確実にとめます。



●ワイヤリング

刈刃ハウジング周辺の配線が図のようになっているか確認します。



メ　モ

メ　モ